

近年発生が増えている害虫と新たな害虫について

病害虫防除対策担当 安田登美

令和7年は全体的に気温が高く推移し、特に6月～9月においては熊谷で35℃を超えた日が53日あり、記録的な高温でした。梅雨入り(5月22日頃)梅雨明け(6月28日頃)が早く、6月後半から8月にかけて記録的な少雨でした。少雨傾向は12月上旬まで続き、高温は10月下旬から落ち着きましたが、11月中旬まで20℃を超える日がありました。

こうした気象経過と近年の温暖化の影響により、害虫の発生動向について変化が見られました。今回は、発生動向に変化のあった注意すべき害虫及び近年増加傾向の見られる害虫について情報提供します。

【シロイチモジョトウ】

フェロモントラップへの誘殺数が、調査地点で平年を大きく上回ったため、8月22日に注意報第5号を発表しました。その後も誘殺数が多い状態が継続したため(図1)、注意報第7号(9月22日)、第9号(10月27日)を発表し注意喚起を行いました。ネギ栽培において被害があったほか、ブロッコリー(写真1)やダイズ(写真2)など広範囲な農作物に被害がありました。

【ハスモンヨトウ】

同じくチョウ目害虫のハスモンヨトウの誘殺数は、夏季の高温期には地点による違いがあったものの、全体的には平年並で推移していました。しかし、気温が下がった9月下旬から平年を大きく上回り(図2)、注意報第9号(10月27日)を発表しましたが、野菜類や花き類に広く被害をもたらしました。11月に入っても野菜や花きのハウスへ侵入し、被害が見られました(写真3)。

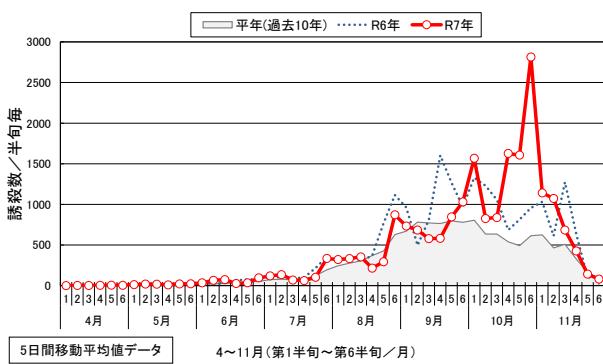


写真1
シロイチモジョトウ若齢幼虫(ブロッコリー)



写真2 シロイチモジョトウ幼虫(ダイズ)



写真3
ハスモンヨトウ幼虫(イチゴ)

【ツヤアオカメムシ】

果樹予察灯において、9月から10月の誘殺数がこれまでになく多い傾向でした(図3)。これは、世代を重ねて個体数が増加したほか、9月以降も活動しやすい気温が続いたためと考えられます。本年は越冬密度が高いことが予測されることから、特に果樹農家の方は発生に気をつけてください。

【チュウゴクアミガサハゴロモ】

チュウゴクアミガサハゴロモは中国で発見されたカメムシ目ハゴロモ科の昆虫です。極めて広範囲の植物を宿主として利用できることが知られており、植物体への吸汁加害や細い枝などへの産卵を行います(写真5～7)。

本種は県内全域で成虫の発生と産卵加害(各種植木類、果樹、茶など)が確認されています。成虫の発生量は予察灯の誘殺数で前年の6倍以上と非常に多くなっており、10月に注意報を発表しました。

秋に産卵された枝を放置すると翌春の幼虫の発生と被害の多発につながるため、11月に発表した防除情報を参考に適切な処分をお願いします。

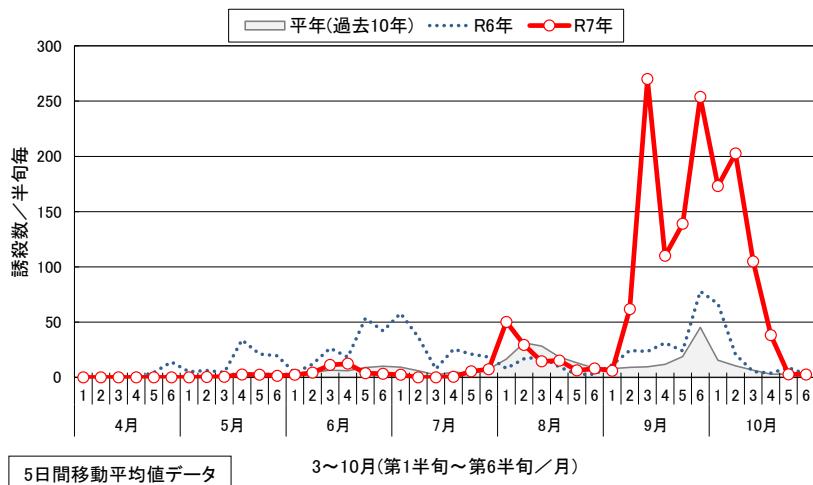


図3 ツヤアオカメムシ誘殺消長(久喜試験場 果樹予察灯)



写真4 落ち葉下のツヤアオカメムシ (R8年1月)



写真5 成虫



写真6 幼虫(キウイフルーツ)



写真7 産卵枝(茶)

病害虫防除所では様々な病害虫について、防除情報や発生予報の発信を行っていますので、ご活用ください！



HP



SNS(X)